

訪問介護記録ソフト 導入に失敗しないための 「これだけは確認してほしい」 チェックポイント



介護記録ソフトとは

介護記録ソフトとは、利用者の情報や提供した介護サービスの記録、計画書の作成など、利用者個人に関係する情報を時系列で入力し、管理するソフトを指します。

一方で、介護請求ソフトは、主に介護保険請求を行うためのソフトです。

記録ソフトと請求ソフトとでは目的が異なり、記録ソフトは日々の事業所運営において、すべてのスタッフに関わるソフトのため、新しく導入する際にはしっかりと選定する必要があります。

【介護記録ソフトの主な機能】

- ・提供した介護サービスの内容の記録
 - ・利用者の血圧や体温など心身の状態の記録
 - ・介護サービスの予定や実績管理
 - ・スタッフの勤務予定や実績管理
 - ・介護計画書の作成
 - ・スタッフの賃金管理
- など

【介護請求ソフトの主な機能】

- ・介護給付費の請求
 - ・利用者へ介護サービス費の請求
- など

介護記録ソフト導入のメリット

業務効率化が図れる

紙ベースの実施記録では、同じ内容を別の書類やパソコンに書き写したりと、何百・何千枚もの書類を処理する必要がありましたが、その作業時間がなくなることで業務効率化を図ることができます。

情報の共有がスムーズになる

利用者に携わる情報を全スタッフとリアルタイムで共有することが可能であり、画像などを添えて伝達したい内容を視覚的に伝えることもできます。事業所のチームワークの向上が図れるメリットがあります。

コストの削減につながる

紙ベースの作業によってかかってしまう人件費や残業代、記録用紙代、その他帳票の印刷代や、それを保管するスペースの倉庫代など様々なコストを削減することができます。

職場環境が改善する

業務効率が向上し、残業の削減やスタッフのモチベーションアップに繋がり職場環境が改善できます。働きやすい職場であることをアピールして人材を獲得し、良質な人材を確保し続けられることも期待できます。

訪問介護記録ソフトを選ぶポイント

1番の重要ポイントは「使いやすさ」!

ただし使いやすさと一口に言ってもは感じ方は人・事業所によってそれぞれ。
「使いやすさ」をちゃんと分解して比較しましょう。

例えば比較すべきポイントとしては

- ・画面の見やすさ
- ・入力のしやすさ
- ・情報共有のしやすさ
- ・動作の軽さ
- ・画面遷移のわかりやすさ

それに加え導入当初などは操作方法がわからずサポートセンターへの問い合わせの機会が多くなります。そのためサポート体制の充実度も使いやすさに関わってきます。

- ・フリーダイヤルの電話サポートが有るか
- ・訪問やオンラインでの導入研修が可能か

上記のようなことがソフトを定着させるには重要になってきます。
ではより細かく見るべきポイントをヘルパーさん目線、サ責さん目線で見ていきましょう。

ヘルパー視点での 選定ポイント



①スマホかタブレットか

まず記録ソフトを検討するにあたって気になるのが日々の記録を訪問先で「スマートフォン」で取るのか「タブレット」で取るのかです。

これに関しては、訪問系サービスにおいては原則移動を伴うため、携帯性や記録の取りやすさという観点から圧倒的にスマートフォンがおすすめです。

タブレットは通所介護や特養のような施設系のサービスなど、端末を頻繁に持ち運ばない介護サービスでの記録向きといえます。

	メリット	デメリット
スマートフォン	<ul style="list-style-type: none">・持ち運びが簡単・簡単に記録が取れる・個人の端末も利用できる	<ul style="list-style-type: none">・情報量の多い文書を閲覧するのには向いていない
タブレット	<ul style="list-style-type: none">・情報量の多い文書でも閲覧しやすい	<ul style="list-style-type: none">・サイズが大きく持ち運びが大変・多くの場合で新たに購入が必要

②アプリかブラウザか

ヘルパーさんが日々触る記録ソフトには大きく分けて2つのタイプがあります。
それがスマートフォンにインストールして使用するアプリ型と、ブラウザで起動するブラウザ型です。
それぞれメリットデメリットがあるのでしっかり押さえましょう。

	メリット	デメリット
アプリ	<ul style="list-style-type: none">・ワンタッチで起動できる・端末にアプリ上から通知を飛ばすことができる・アプリを停止しても記録が消失しない	<ul style="list-style-type: none">・初回のみインストールが必要・バージョンアップの際にアップデートが必要(自動アップデート設定をしておけば不要)
ブラウザ	<ul style="list-style-type: none">・専用アプリのインストールが不要・OSのバージョンや端末などに依存しづらい	<ul style="list-style-type: none">・ネット回線が重いと動作が重くなる・ブラウザによってはレイアウトが崩れる(縦長のレイアウトになりがち)・通知などを飛ばすことができない・誤操作による記録の消失の可能性

※各社ソフトの仕様によってメリット・デメリットは異なる場合がございます。

③利用者認証方法

利用者認証方法もソフトによって異なりいくつかの方法があります。
それぞれのメリット・デメリットを理解してソフトを選びましょう

	メリット	デメリット
QRコード	<ul style="list-style-type: none">・端末に依存しない・コストがかからない	<ul style="list-style-type: none">・複製が容易のため証拠能力に欠けることも・暗いところや、扱いに慣れていないと読み取りがうまく行かないことがある
GPS	<ul style="list-style-type: none">・写真を撮る、タグにかざすなどの操作がないため比較的容易・コストがかからない	<ul style="list-style-type: none">・同一建物への訪問の場合、実際の利用者宅に訪問しているかは不明瞭・誤差が生じるため訪問していなくても訪問した事実として扱える
ICタグ	<ul style="list-style-type: none">・かざすだけなので操作が容易・複製ができないため証拠能力が高い	<ul style="list-style-type: none">・コストがかかる(1枚@3-400円程度)・NFC付きのスマートフォンが必要

④記録入力画面について

紙のフォーマットの場合、ケア内容などを自社独自にカスタマイズしている場合があります。そういった場合はソフト側でもカスタマイズの対応が必要です。

ソフトによってはその修正ができないものもありますので理解をしておく必要があります。

また、ソフトを使った記録に変更するメリットとして「予め予定のケア内容をチェックしておく」ということが可能になります。ヘルパーさんが誤ったケアを提供したり、間違えてチェックをしたりしないためにもこのような機能が搭載されているか確認しましょう。

要チェックポイント

- 介護項目(ケア内容)がカスタマイズできるか
- 予定されているケア内容は計画書に沿って予めチェックされているか

⑤セキュリティ・コンプライアンス

いくら使いやすくてもセキュリティやコンプライアンス面に配慮されていないシステムは機微情報を扱う介護記録において致命的。

どういう配慮がされているのか確認しましょう。

要チェックポイント

担当者ごとに閲覧情報の制限がかけられるか

端末認証の方法は安全か

↳ ブラウザ方式の場合でID/パスワードをオートログインにしている場合は要注意

確実に訪問の証明になるのか

↳ GPS: 同一建物などの場合確実な証拠となりにくい

↳ QRコード: 複製が容易

サービス提供責任者 視点での選定ポイント



管理画面について

計画書の作成ができる、ヘルパーが取った記録が閲覧できる、シフトの管理ができるなどといった基本的な機能の他にソフトによって細かな機能の違いがあります。

実際に導入したあとに使い勝手が悪くストレスが貯まるといったことがないように細かい部分もチェックをしましょう。

要チェックポイント

機能面

- 記録の修正はしやすいか
- 帳票出力はどのような形式か (PDF、CSV、JPGなど)
- シフト管理: ドロップ & ドラッグで簡単にシフト変更ができるか
- シフト管理: これまで利用してきたシフト表の様式に見た目を合わせられるか
- アセスメント、モニタリングの機能は搭載されているか
- 特定事業所加算における指示が出しやすい設計になっているか

全般

- 同時ログインが何名まで可能か
- 担当者ごとの権限設定が可能か
- 記録の不正ができない仕組み、不正を察知、操作のログがどこまで残るか
- 請求ソフトとの併用、連携が可能か
- 記録の保管期限は法令上の期限を満たせるか

その他にも

■施設内で訪問介護サービスを提供している場合

要チェックポイント

- 施設内業務などサービス以外の記録が取れるか
- 施設内の動きにあったシフト作成が可能か

■障害サービスを提供している場合

要チェックポイント

- 連続したサービス(身体→生活など)の場合にも対応できるか
- 移動支援にも対応しているか
- 任意でサービスコードが登録できるのか

事業所の行うサービスにしっかりと対応できるソフトでないと、部分的に紙が残りペーパーレスにならない可能性があるので注意しましょう。

よくある質問：一体型か特化型どちらが良いか

自社に合うソフトを選ぶ上で、請求と記録が一体型のソフトと記録に特化しているソフトがありますが、どうやって選べばいいですか？といったご質問をよくいただきます。

その答えとしては「**記録ソフトを中心に選ぶ**」のがおすすめです。

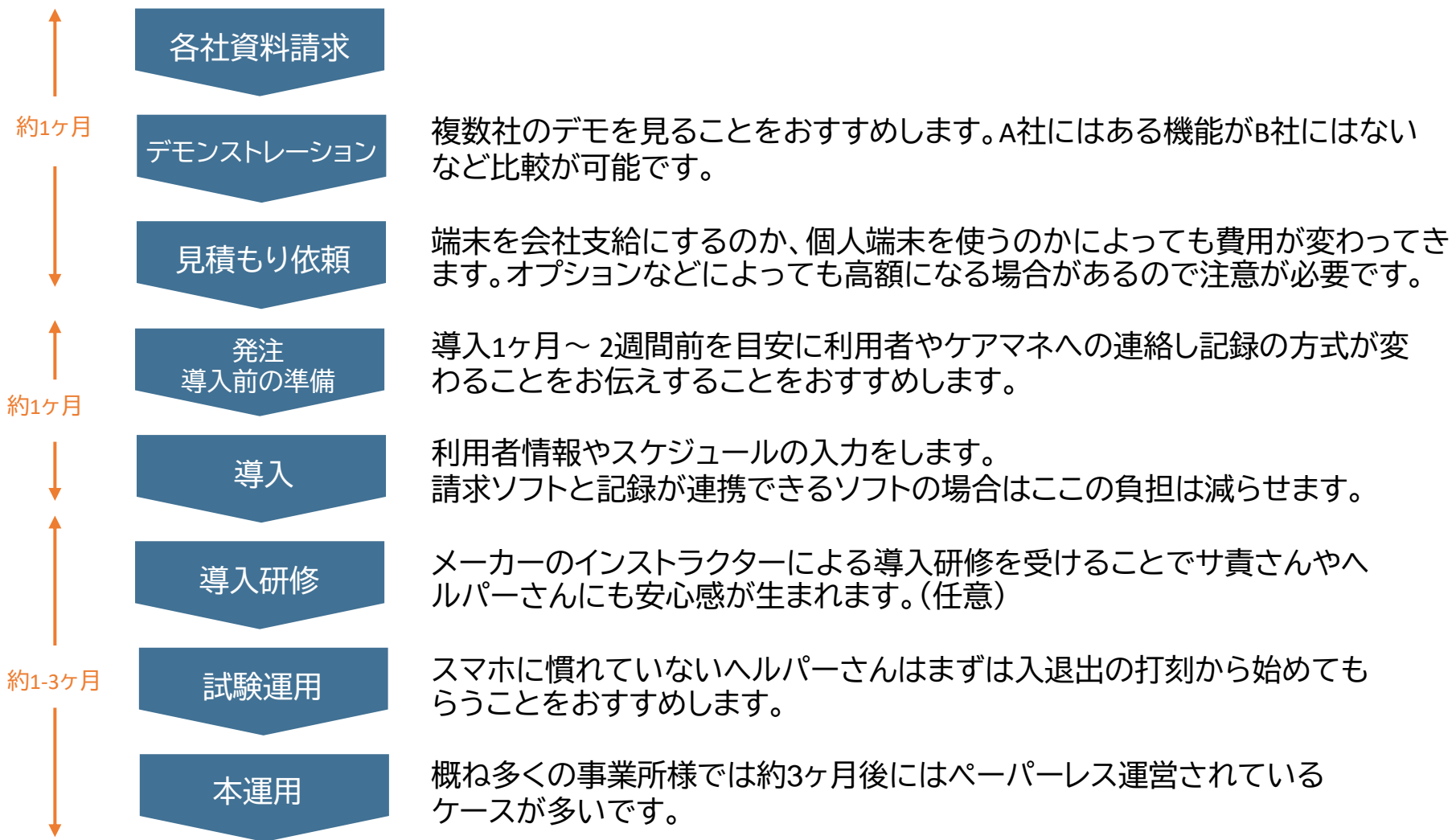
その理由は、

請求ソフトは主に請求担当者が使うものですが、記録ソフトはヘルパー含め全員が使うもの。使う人の範囲が異なるため、業務効率化を目的とした場合、記録ソフトを優先して選ぶのがベストです。

また、一体型のソフトメーカーは自社製品のみを取り扱う事から「請求は良いが記録は悪い」、「請求は悪いが記録は良い」といった事例が存在し、“我慢”が事業所側に求められる可能性があります。

大前提として、記録と請求は別の作業ですので連携していなくても業務には利用できます。さらなる効率化を考えて連携したい、という場合は記録特化ソフトにも連携できる請求ソフトが複数用意されている場合が多いので、その中から自社にあったものをソフトメーカーの担当者から推薦してもらいましょう。

一般的な導入までのスケジュールのイメージ



ソフト選定比較表

各社のデモンストレーションを見て機能面をチェックしましょう

項目	ソフト名()	ソフト名()
対応端末	スマホ / タブレット	スマホ / タブレット
形式	アプリ / ブラウザ	アプリ / ブラウザ
認証方法	QR / GPS / ICタグ	QR / GPS / ICタグ
ケア項目カスタマイズ	○ / ×	○ / ×
ケア項目チェック	○ / ×	○ / ×
管理画面 機能面	○ / △ / ×	○ / △ / ×
管理画面 全般	○ / △ / ×	○ / △ / ×
施設向け機能	○ / △ / ×	○ / △ / ×
障害サービス対応	○ / △ / ×	○ / △ / ×
サポート体制	○ / △ / ×	○ / △ / ×

Care-wing 介護の翼とは

介護事業所の依頼をもとに開発した、
83歳のヘルパーさんでも使える介護記録ソフトです。

計画書の作成、日々の介護記録など
事業所運営にまつわる様々な業務を一元管理

導入数 **2,200** 事業所！



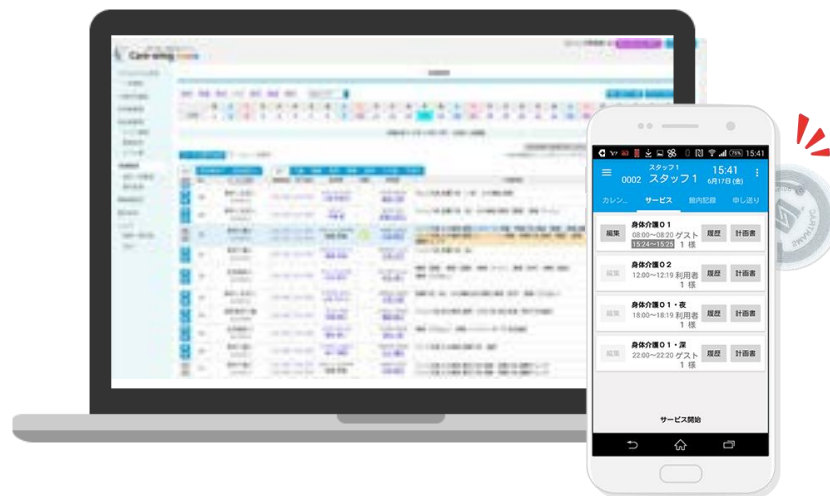
シフト管理・変更など
事務作業の効率化



介護記録を電子化し
ペーパーレスの事業所運営



実績に応じた賃金計算



Care-wing 介護の翼の特徴

ICタグを使った簡単操作！

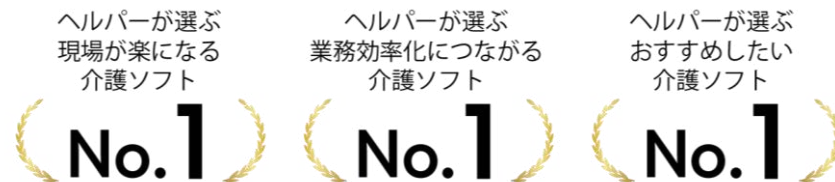


弊社独自のビジネスモデル特許申請中のICタグにかざすだけの簡単操作で83歳のヘルパーさんにも使いこなしていただいています。

その他にも

- ✓ 15社以上の請求ソフトと連携
- ✓ 施設に特化したシフト表作成
- ✓ もちろん、障害サービスにも対応！
- ✓ 専任のサポートスタッフがお電話でわかりやすく対応

No1介護ソフトの称号獲得！



日本マーケティングリサーチ機構調べ 調査概要:2021年5月期ブランドのイメージ調査

会社概要

社名 株式会社ロジック(Logic Inc.)
代表者名 代表取締役CEO 和田森 久志
設立 1995年4月26日
資本金 1億7,201万3千円(資本準備金を含む)
所在地 本社 金沢 / 支店 東京・大阪

【本社】
〒921-8062
石川県金沢市新保本3-21
TEL:076-269-1000

【東京支店】
〒100-6813
東京都千代田区大手町1-3-1JAビル13階
TEL:03-6273-4567

【大阪支店】
〒530-0041
大阪市北区天神橋2-3-8-MF南森町ビル3階
TEL:06-6232-8841

事業内容

訪問介護・看護支援システム「Care-wing 介護の翼」の開発・販売

【沿革】



お問い合わせはこちらから

デモンストレーション、導入のご相談は、
お気軽に以下までお問い合わせください

株式会社ロジック 東京支店



TEL:0120-11-6219

<https://care-wing.jp/>

「マンガでわかるケアウイング」の資料もご用意しております！

